

授業の達人!

～「板書」の巻～

学習の流れが分かり、子どもの理解を深める板書を工夫しよう!

国算編

「授業の達人!」は、
今号から新たにスタートする
「達人シリーズ」です。
授業の基本的なスキルを
シンプルにビジュアルで
お伝えしていきます。

理解を深める 5つのポイント 国語編

5 読み取りを深める 発問

物語の流れに沿って読み取ったことから、登場人物の心情やその変化について、その人の立場に立って、考えを深める活動を促す発問をしたい。

4 読み取ったことの 構造化

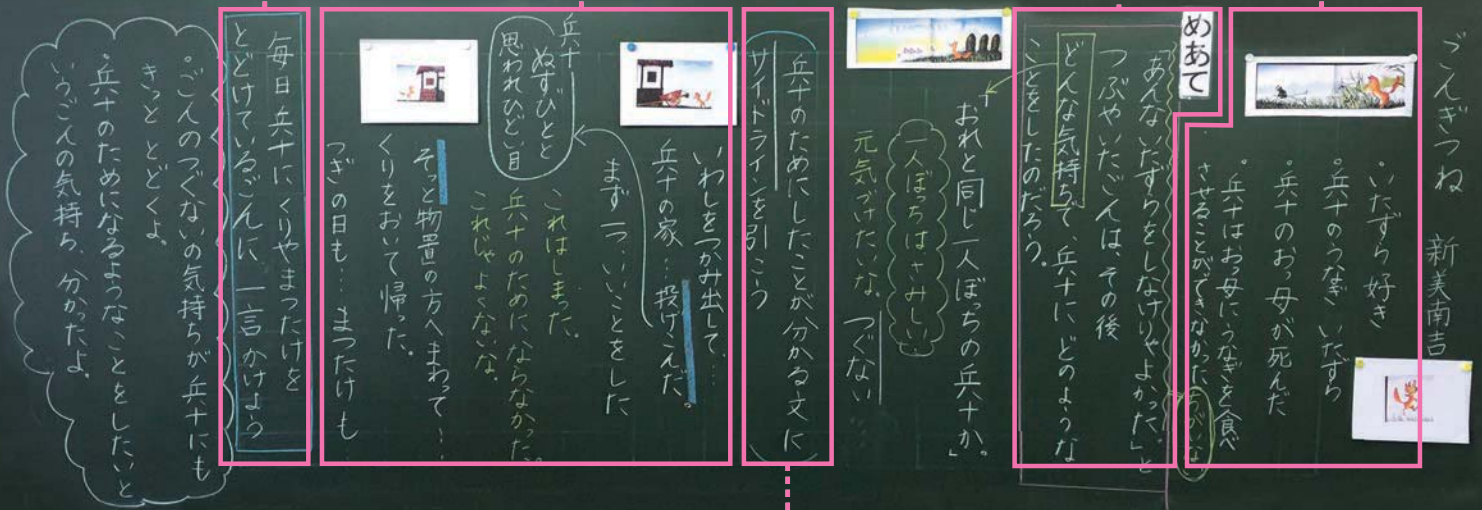
めあてに対する本文の書き抜きと、そこから考えたり思ったりしたことを関係づけるように、構造化して表記する。

2 「めあて」の提示

本時で扱う本文を一読後、前時までの流れと対比させて、本時のめあてを子どもと一緒に言語化する。

1 前時のふり返り

前時まで読み取ってきた内容で、本時の読み取りを深めるために必要な情報を提示しておく。



「まとめ」は、「めあて」にそって書くことが大切です。気をつけたいですね。



3 読み取りの見通し

文中の言葉に着目することが大切なので、「サイドラインを引く」「気持ちを表している言葉を囲む」などの読み取りの手立てを確認する。



デジカメで板書を撮影しておくこと、あとでふり返ることができそうです。



吹き出しには児童の目線がいきやすく、メリハリもつく。

その3

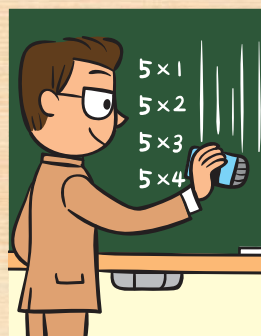
子どもの発言は色分けし、吹き出し風を書くべし!



横や斜めから書くと、どうしても曲がってしまう。(線を引くのも同じ。)

その2

真直ぐに字をかくには、その正面に立つべし!



消した跡が縦に文字や線を書く際の目安になる。

その1

国語の前には、縦に黒板を消しておくべし!

達人直伝!
板書テクニク





「板書の価値」って何？

子どもと一緒につくる授業の
総決算。この一時間で、

・何をめあてにしたか。

・どのようなことを学習したか。

・どのようなことが分かったか。

といった問題解決の手順を、
子どもたちの発言を通して視
覚化することができる。一時間
の学習がイメージ化でき、子ど
もたちのノートにも残っていく。

「授業の流れがひと
目で分かる板書」って、
どんな板書ですか？

児童の発言をなるべく
残して視覚化し、学
びの足跡が分かるよう
に気をつけています。

やっぱり、見やすく
簡単な板書が分かりや
すいかと思います。

授業の構想をもって
板書しなければ、ま
まりのある板書には
ならないですね。た
だ計画通りに書くだけ
なく、子どもと一緒に
板書をつくっていくイ
メージが大切だと思
います。

理解を深める 6つのポイント 算数編

1 前時のふり返り

前時まで学習してきた内容をふり返り、本時の課題につながる児童の発言を引きだし、板書しておく。

3 「問題」の提示

白色のチョークで囲み、分かりやすくする。

5 見通し

児童の疑問や発言を適宜、記録していく。

6 考え方の共有・検討

- ある児童に考えを発表させたあとに、他の児童の気づきや発言も記録する。
- 発表した児童のネームマグネットを貼る。
 - ➡同じ解決方法だった児童のネームマグネットを貼ると、学級の児童の考え方の傾向が分かる。
 - ➡発言はできなくても、授業への参加度が高まる。

「曲線のある形の面積」②

めあて

問題) 半径5cmの円の面積を求めましょ。

見通し

1/4の円を4枚

友達の考え

まとめ

2 既習事項のふり返り

本時の解決の見通しとなるふり返りをする。

4 「めあて」と「まとめ」の表示

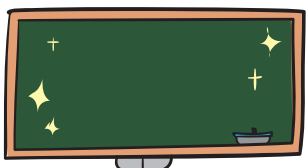
「めあて」「まとめ」は必ず使うので、パウチして用意しておくのもアイデア。



子どもの発言の横に名前を書いておけば、あとで評価にも使えますよ。

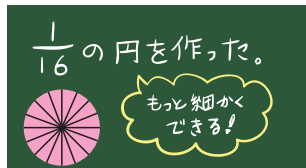
注意したい 4つのポイント 共通

1 常に黒板はきれいにしておく!



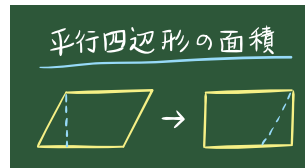
「黒板のきれいさは、児童の心につながる」という意識をもちたい。

2 文字の大きさは、発達段階に応じて!



全体の大きさに配慮するとともに、強弱もつけたい。

3 多色の使い分けは避ける!



色の識別に配慮が必要な児童もいるため、3色程度におさえたい。

4 「板書は子どものノート」の意識を!



子どものノートの形状も意識して板書に取り組みたい。